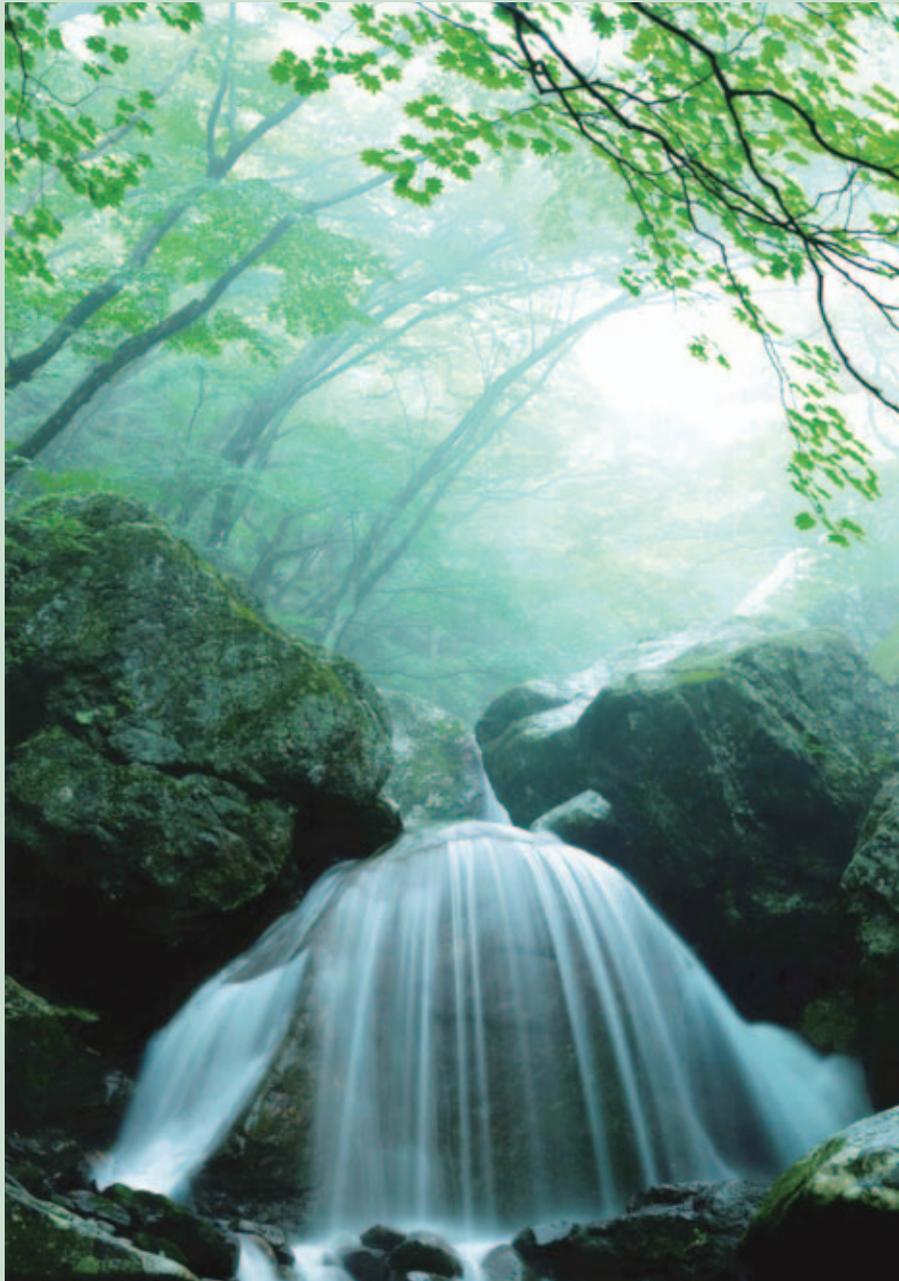


林業福島

No. **660**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 齋藤卓夫



8

2019

監修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 澄んだひととき



大径材を活かした木造建築をすすめる

福島県木材協同組合連合会
会長 鈴木 裕 一

現在、日本の森林はとても力強く、着実に年輪を刻んだ木が育っています。丁寧で育てられた丸太からは力強い自然の美しさを感じます。厳しい自然を耐え抜いてきた木々には、言葉で言い表せない説得力や普遍的な魅力を感じますし、私はこの魅力を未来に継承することが大切だと日々考えています。

戦後、福島県では建築材としてスギの植林が盛んに行われ、近年ではその木が樹齢五〇年・六〇年と育ってきていますが、一方、スギの生長に木材の生産・利活用が追いついていかない現状があります。私の会社では大径材としてきているスギ材を多く使用できる建築用無垢材として活かすことで、山と消費者との間の循環を促進したいと考えています。大径材には年輪を重ねてきた力強さがあり、無垢材として使うことにより木材の持つ魅力を建築に素直に表現でき、自然の力強さを反映することができます。しかしながら、大径材を活用できる環境は十分に整っているとは言えません。このため大径材を流通・加工するためには多くの課題があり、伐採する山元と需要者側の加工業者が求めている丸太の長さや径級の情報を共有することや、加工技術面では大断面製材品の乾燥は大きな問題で、人工乾燥施設の改良や乾燥コストの低減に向けた検討を進めているところです。

今は木材、木造建築にとって追い風の時代です。平成二二年五月に施行された「公共建築物木材利用促進法」により公共施設を中心に大型建築物の木造・木質化が進められており、平成二九年度国の低層公共建築物の木造化率は六割を超える報告がありました。さらに新国立競技場の設計・建築に携わっている隈研吾氏は「一九六四年の東京オリンピックの時は、鉄とコンクリートの時代で、最先端を見ることが時代のテーマだったと思う。でも今回は、自然の素材の活用と地方の多様性を重視し、全国四七都道府県のスギを並べて新しい国立競技場に使ってみた。後の人たちにも木の競技場として親しまれていくならうれしく思います。」と語っていました。

日本のスギは何とも言えない深い赤味のある色味と優しい肌触り、落ち着いた香りが特徴で、さらに大径材になると長い年月をかけて形成した木肌の表情や深みが味わえます。福島県の木材業界では、その様な利点を生かした価値ある木造建築が、少しでも増加することを期待し、お手伝いできればと考えています。

《も く じ》

とびら	
大径材を活かした木造建築をすすめる	
福島県木材協同組合連合会	
会長 鈴木 裕 一	… 1
ふるさとの川“荒川”が9年連続！水質「日本一」	… 2
第43回 8/1は水の日 8/1~7は水の週間	… 2
県政コーナー	
次世代へつなぐ森林づくりの取組	
～森林環境基金森林整備事業の拡充について～	… 3～4

平成30年度福島県林業会館 フォレスト助成金事業を実施して	… 5
第2回ふくしま植樹祭	… 6
「FGAPについて」	… 7
普及指導員通信	… 8
福島県林業労働力確保支援センターだより	… 9
公社だより	… 10
木の文化を育む⑤	… 11
木材市況・ふくしま東西南北	… 12
はなしのひろば・お知らせコーナー	… 13

ふるさとの川“荒川”が9年連続！水質「日本一」

福島県土地・水調整課

国土交通省が管理する全国の河川（164河川）で2018年に実施した水質調査において、吾妻連峰を水源に福島市内を流れる清流「荒川」が9年連続で「水質が最も良好な河川」に選ばれました。

この9年連続水質日本一に貢献しているのが「ふるさとの川・荒川づくり協議会」で、20年に渡り、毎年2回の清掃活動をはじめ、鮭の稚魚放流や、子供たちによる水生生物調査、流域の歴史探訪を行う「あらかわ自然学校」などにより、河川を大切にす“こころ”を養う啓発活動に取り組んでいます。



いいね！ ARAKAWAプロジェクト



若者のアイデアで「荒川」のさらなる魅力（いいね！）を掘り起こすプロジェクト。体験型の荒川ツアーの旅行商品化を目指して、地元の学生たちが検証ツアーなどを開催しています。

第43回 8/1は水の日 8/1～7は水の週間

福島県土地・水調整課

水は生命の源であり、地球上の水は、海や陸から蒸発して雲となり、雨や雪となって再び地上に降り、森林や農地で水源や地下水としてかん養され、河川などを流れる表流水は海域等に至る過程において、人の生活に潤いを与え、産業や文化の発展に重要な役割を果たしながら、絶えず私たちの周りを循環しています。

国では、水循環基本法第10条において、8月1日を「水の日」と定め、国及び地方公共団体は、貴重な水資源や健全な水循環についての理解と関心を深めることを目的とした普及啓発活動等を実施することとされています。

福島県内においても、この趣旨に沿ったイベントや水環境の保全活動が実施されます。皆さんも、各種イベントや水環境活動に参加し、楽しみながら身近な「水」について考えてみませんか？

【関連ホームページ】

○国土交通省「水の日」及び「水の週間」

(URL : http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/tochimizushigen_mizsei_tk1_000012.html)

○福島県土地・水調整課「水のイベント情報」

(URL : <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11015c/mizu-event.html>)



平成30年8月7日開催
第40回「全日本中学生水の作文福島県コンクール」表彰式
※昨年度のイベント開催状況



森と湖に親しむさくら湖自然教室2018
※昨年度のイベント開催状況

県政コーナー

次世代へつなぐ森林づくりの取組
 森林環境基金森林整備事業の拡充について

福島県森林整備課

○森林環境基金森林整備事業の概要

福島県の森林は県土の約七〇％を占め、豊かな自然環境と良好な生活環境を生み出しています。県民共有の財産であるこの豊かな森林を守り育て、次世代に引き継ぐため、福島県では平成十八年度から森林環境税を導入し、「県民一人一人が参画する新たな森林づくり」に取り組んでいます。

森林環境税を財源とした各種事業のうち、森林環境基金森林整備事業では水源区域や水源かん養機能又は山地災害防止機能が特に高い森林を適正に管理するため、森林整備事業（間伐）と森林資源造成支援事業を実施しています。森林整備事業（間伐）では、公益的機能が特に高い森林において施業の集約化を図り、荒廃が心配される森林の整備（間伐）

を支援しています。平成十八年度から平成三〇年度までに二七、四二二

の森林整備（間伐）が実施されました。また、平成二八年度からは、森林資源を持続的に利用できるように、植栽を実施した際の苗木代の支援として森林資源造成支援事業を行い、平成三〇年度までに一五九の植栽が実施されました。

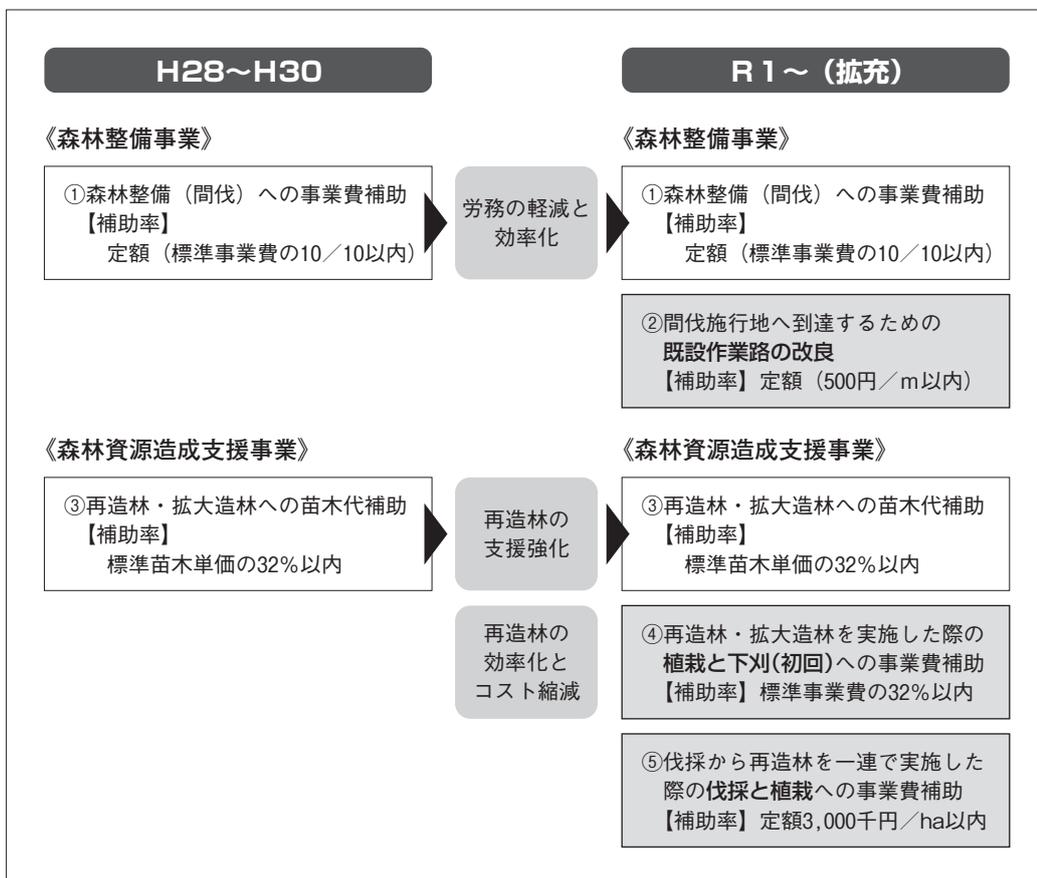
令和元年度からは、さらなる森林整備の推進と再造林等による森林資源の若返りを図るため、次のとおり事業内容を拡充しました（図一）。

○拡充の内容

1 森林整備事業の拡充「既設作業路の改良」

これまで到達できなかった奥地の森林整備を期待し、森林整備実施地へ到達するための既設作業路につい

図一 森林環境基金森林整備事業の概要



て、雑灌木刈り払い・不陸整正・路肩補修等を実施した場合に定額（五〇〇円/延）を補助します。

2 森林資源造成支援事業の拡充

これまでは苗木代が補助対象でしたが、植栽から伐採までの育林経費全体では、再造林や下刈といった初期費用が約七割を占めており、森林所有者には、依然として再造林に対する負担感が重く、造林意欲が低下したままであることから、伐採・再造林・下刈への補助を拡大しました。

① 植栽と下刈（初回）

森林環境保全直接支援事業による再造林を実施した際に、苗木代だけではなく再造林とその後の初回下刈までの経費全体に、標準事業費の三割を補助します。

② 一貫作業システムによる伐採と再造林

近年、再造林の低コスト化を図るため、一貫作業システムへの取り組みが重要となつていま

す。一貫作業システムとは、伐採・搬出作業と並行または連続して、伐採・搬出時に用いる林業機械を地拵え又は苗木等の資材運搬に使用したり、集材用架線を苗木等の資材運搬に使用するなどし、一連の造林作業の効率化を図る伐採・造林を実施するシステムです（図1-2）。今回の拡充では、伐採と再造林を実施した場合に定額（三、〇〇千円/延以内）を補助します。これら①と②のメニューは、事業実施主体が「意欲と能力のある林業経営者」である場合で、②の一貫作業システムについては、「伐採者と造林者の連携等による伐採と再造林のガイドライン」に基づき実施した場合に補助対象となります。

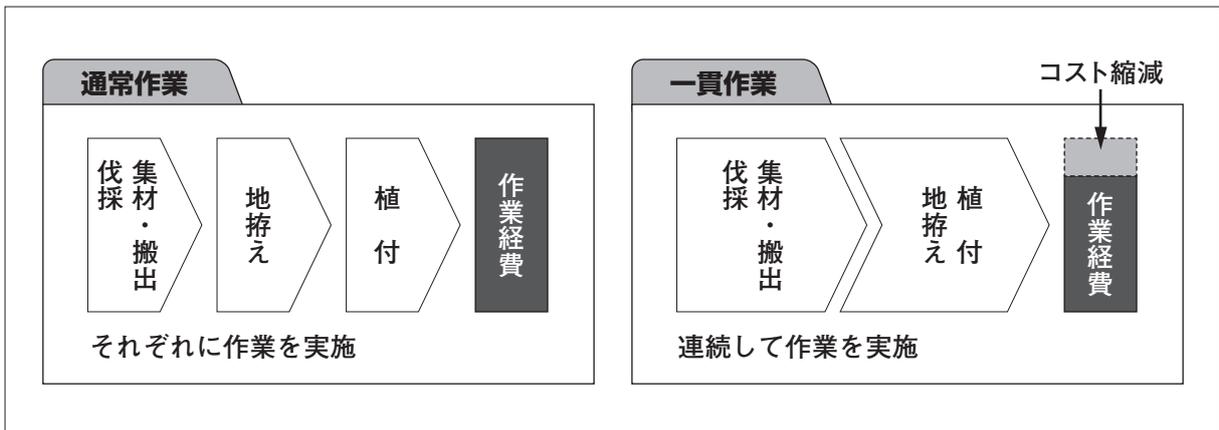
○おわりに

豊かな森林を守り育て、次世代に引き継ぐために平成十八年度から当事業に取り組んできたところす

が、平成二三年の東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所事故により、本県の森林及び林業・木材産業の再生には、長い期間を要します。関係する市町村や林業事業者、木材産業等の川上から川下にかけての関係者のみなさんと密接に連携しながら、森林環境基金事業やふくしま森林再生事業等により、森林の持つ公益的機能の発揮と森林再生の加速化を図るとともに、持続可能な森林経営に資する森林資源の造成に取り組んでまいりますので、引き続き皆様のご協力をお願いします。



図-2 一貫作業システムとは



平成三〇年度福島県林業会館 フォレスト助成金事業を実施して

川桁ふるさと会

川桁ふるさと会の活動について

先ず、フォレスト助成事業の御支援をいただき私達ふるさと会が、より幅を持った事業に取り組み事が出来ましたことに対し、感謝申し上げます。

私達は、自然を大切にし、それを生かした環境作りに取り組み活動をしています。

組織の構成として、川桁ふるさと会は、平成三年五月に川桁地区民で結成し、現在は四五名の会員で活動しています。年齢層は五〇代から八〇代の「老若男女？」で、活動の目的は地区の活性化と住民の快適な環境作りとし、皆が、あく此処に住んで良かったなあと、思える地域を作って行きたいと思っています。

活動内容としては、主に桜樹木の管理支援事業、花植プランター設置事業、毎年「干支」のイルミネーション制作、商工会事業の協力で歳ノ神の一連作業、カタクリの里整備保全、県が主管する「紺碧の猪苗代湖復活プロジェクト会議」のメン

バーとしての、猪苗代湖岸の清掃等です。

また、私達の住む川桁は、地区を南北に二分する様に、岩魚も棲む清流「観音寺川」が流れており、延長約一キロの両岸に、樹齢一〇〇年を超える約二〇〇本の桜並木があります。

花見シーズンになると咲き誇った桜が、川面に映し出し、幾重にも段を作って流れる清流そのロケーションは、他では見られないものと自負しています。

毎年四月下旬から五月上旬に開催される桜祭りには、近年一〇万人程の観桜客が訪れ、今年は開花の期間が長かったためか、約一五万人位の人々が訪れました。桜祭り実行委員会では来場者をあたたかく迎えるため、休憩所を設置し無料で湯茶のサービスを提供しています。

川桁ふるさと会は、この実行委員会のメンバーとなり、準備の段階から期間中、川の草刈りやゴミ拾い、テントの設営等、支援協力体制をとっています。昨年度は、フォレスト助成事業の助成により、木製の椅

子を作成し、観桜客の休み場として提供しました。観桜客の皆さんに喜ばれ好評だったことから、今年は椅子を追加するとともに木製のテーブルも作って休み場に設置しました。観音寺川の川沿いを歩いて行くと行政の協力で設置した「飛び石」があり、子供達の川遊びや景観に一役買っているスポットがあります。ここには対岸に渡るための階段と桜祭り期間限定の丸木橋を設置し、大変好評を得ています

が、河川内にあるため傷みが早く補修が必要となり、フォレスト助成事業の助成で購入したチェーンソーや草刈機を使って間伐材を活用し整備を行っています

また、樹齢一〇〇年を超える桜を良好な状態で保全するため、病害虫の消毒や老朽化した枝の選定、てんぐ巣病の除去、コケ落し等、年間を通して作業を行っています。フォレスト助成事業による機械器具を活用し整備を行っています。

最後に、事業の効

果としてフォレスト助成事業の活用により、川桁ふるさと会事業を進めるに必要な機械器具が整備され、多様な活用が図られました。桜祭りの休憩所に提供した木製椅子やテーブルが大変好評で観桜客へのサービス向上に寄与出来ました。

今後、カタクリの里づくりとして保全の強化と、地域住民の憩いの場として提供できるような整備も検討して行きたいと思っています。



満開の桜と、段を作って流れる清流観音寺川



アメリカシロヒトリ除去（消毒）



桜の開花と残雪の磐梯山も望めるロケーション



間伐材を使った丸木橋作り

「第2回ふくしま植樹祭 ~ABMORI~」参加者募集中!!

ふくしま植樹祭実行委員会



昨年11月に南相馬市の海岸防災林で開催しました第1回目のふくしま植樹祭は、福島県内外から多くの参加者にお越しいただき、森林づくりの推進や、復興に向かって歩み続ける福島を広く発信する全国植樹祭の開催理念を引き継ぐ大会となりました。

今年度、第2回目となりますふくしま植樹祭も引き続き、新たな元号のもと、植えて、育てて、利用してまた植える県民参加による持続可能な循環の森林づくりを進めるとともに、複合災害からの復興再生に取り組む福島の今を広く発信し、共感の輪を一層広げてゆく大会となるよう開催に向けて準備を進めております。

第2回ふくしま植樹祭は、令和元年10月6日(日)午前10時から午後2時まで、ふくしま県民の森(大玉村)において開催します。

当日は、広葉樹の植樹や、少花粉スギ苗の補植、下刈を行うほか、ふるまい鍋の提供や県産農林水産物の販売、薪割り、炭焼き、ツリークライミング、森林のアロマづくり、森林セラピーヨガなど多彩な交流イベント活動を用意しております。

また、2019年ミス日本みどりの女神の藤本麗華さんと福島県出身で2017年ミス日本みどりの女神の野中葵さんも、皆様と一緒に活動に参加されます。

さらに、参加された方の中から抽選で「ABMORIグッズ」をプレゼントするなど楽しさ満載です。

参加の申込み期限は、9月10日(火)までで、2,000名の定員に達し次第、締め切りとさせていただきますので、お早めにお申し込みください。

多くの皆さんの参加をお待ちしております。

○申込み方法

- ホームページからの申込み…第2回ふくしま植樹祭ホームページから申し込みいただけます。

第2回ふくしま植樹祭

検索

- ファクスからの申込み……第2回ふくしま植樹祭チラシ裏面の参加申込書に必要事項を記入のうえ、FAX 024-991-4741に送信できます。

**申込み
問い合わせ先**

ふくしま植樹祭実行委員会事務局 TEL 024-933-2805
(土・日を除く 10:00~17:00)

「FGAPについて」

福島県林業振興課

「FGAP (Fukushima Good Agricultural Practice)」とは、JGAP等の基準として用いられる「農業生産工程管理 (GAP) の共通基盤に関するガイドライン」に放射性物質対策を加えた福島県独自の基準です。GAPは、都道府県が独自に定めるFGAP等以外に、GLOBAL G.A.P.、JGAP、ASIAGAP等の種類があります。都道府県が認証する都道府県GAP (例：FGAP) 以外は、民間団体による認証機関があり、GAP認証を受けるために申請した団体は、農薬の管理方法等の農場を管理する上で必要な基準を満たしていれば、良い農業の取組み (Good Agricultural Practice) をしているとして認証を受けることができます。近年、GAP認証を受けた農場及び生産者は増加傾向にあります。これには、2020年に開催される東京オリンピックの選手村へ提供される食材がGAP認証を受けたものと決まったこと、飲食店や販売店でGAP認証を受けた食材を優先的に仕入れる動きが活発化していることが影響しています。



平成29年5月15日、福島県は「ふくしま。GAPチャレンジ宣言」の中で、GAP取得件数日本一を目指すことを宣言しました。宣言どおりに、平成29年度は62件 (うちFGAPは5件) であったGAP認証取得件数は、平成30年度には154件 (うちFGAPは32件) と大幅に増加し、日本一に向けて着実に歩みを進めているところです。県内のGAP認証取得者のうち、きのこ生産者についても平成30年度までに8者 (うちFGAPは4者)



がGAP認証を取得しています。県内の栽培きのこの一部は、東日本大震災による原子力発電所の事故で起きた放射能拡散により出荷制限がかかりましたが、出荷制限がかからず、食品衛生法の基準値であるセシウム合計値100Bq/kgを超えない栽培きのこにおいても風評被害により震災以前の販売量まで回復していないというのが現状です。2020年の東京オリンピックは、県内の栽培きのこを含めた農林水産物が安全で美味しいものであることを宣伝する大きな機会です。GAP認証を受けたい生産者様がいらっしゃれば、最寄りの県農林事務所へ御相談ください。

表1. きのこ*1のGAP認証に関するご相談先

事務所名	電話番号	郵便番号	住所
県北農林事務所	024-521-2632	960-8670	福島市杉妻町2-16 (福島県庁北庁舎5階)
県中農林事務所	024-935-1367	963-8540	郡山市麓山一丁目1番1号
県南農林事務所	0247-33-2123	963-6123	東白川郡棚倉町大字関口字上志宝50番地1
会津農林事務所	0241-24-5734	966-0901	喜多方市松山町鳥見山字下天神6-3
南会津農林事務所	0241-62-5375	967-0004	南会津郡南会津町田島字根小屋甲4277-1
相双農林事務所	0244-26-4305	975-0031	南相馬市原町区錦町一丁目30番地
富岡林業指導所	0240-23-6084	979-1111	双葉郡富岡町小浜553-2
いわき農林事務所	0246-24-6193	970-8026	いわき市平字梅本15番地

*1：きのこ以外のご相談は連絡先が異なります。

東白川地域における 「地域内エコシステム」構築に向けて

福島県南農林事務所
林業普及指導員 成井伸司

東白川地域の森林面積は約49,000haで森林率が79%と豊かな森林に囲まれ、民有林の人工林率も約58%と県平均を大きく上回る県内有数の林業地帯となっています。

林業が盛んであったこの地域の人々は、山林の手入れ（間伐や枝打ち）を行い、日々の炊事やお風呂、暖房に薪を使い、また、貴重な収入源として木々を育ててきました。

近年では、木質バイオマスが再生可能エネルギーの一つとして再び注目されており、農林水産省、経済産業省では、地域の森林資源をエネルギー供給源として見直し、地域内でそのエネルギーを持続的に活用する取組を、全国で「地域内エコシステム」として構築することを目指しています。

東白川地域では、平成30年度に「地域内エコシステム構築事業」の採択を受け、東白川郡の4町村のほか、地域の関係者（川上から川下の事業者）の連携の下、実現可能性調査や課題解決に向けた検討を重ねており、当農林事務所の普及指導員等も助言指導に努めてきました。

具体的な成果として、バイオマスの利用可能量を把握するため、森林資源賦存量等について調査し、この地域のスギは、年間蓄積量（想定）が93,542m³/年、素材生産量が113,212m³/年、C材発生量が28,869m³/年と地域内の需要に十分対応できることが分かった一方、材の搬出に係る費用がC、D材でもA、B材と同じであり、C、D材の搬出の支援や、買取価格に工夫が必要であることも判明しました。

また、埴町に新たなチップ工場が建設され、既存の大規模製材工場やペレット工場もあり、燃料の生産・加工のインフラが充実している地域であるほか、地域内の町村に設置されている温水プールや入浴施設のボイラーが更新時期を迎えており、こうした施設で木質バイオマス利用を図ることで、地域の未利用資源が十分に有効活用できる地域特性があることも確認できました。

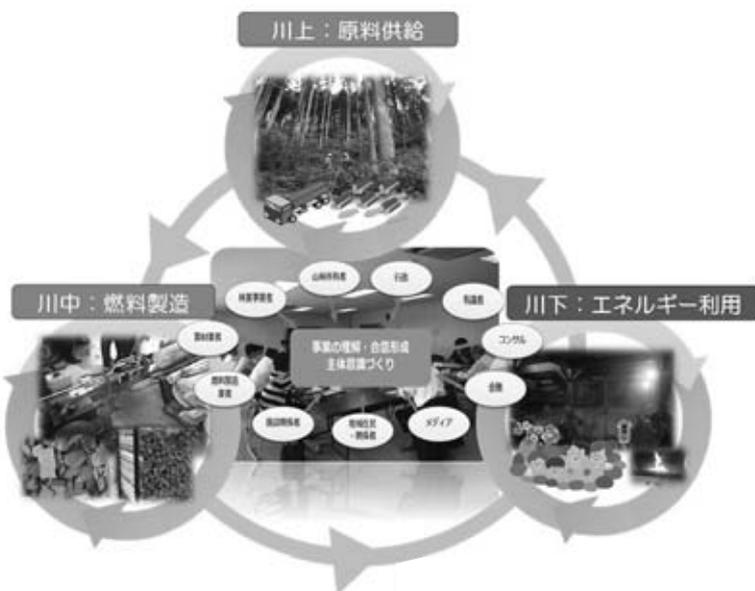
今年度は、前年度の実現可能性調査の結果を踏まえ、地域内エコシステムの具現化に向け、より詳細な資源量等の調査とエコシステムの概念設計、温泉施設等のボイラー設備更新に係る基本設計を計画しており、このたび、2年目の「地域内エコシステム構築事業」の採択を受けたところです。

引き続き、今年度事業の詳細調査や山林内に放置される未利用材の搬出支援の検討、さらには、川上～川下までのサプライチェーンの構築に向けた事業者、連携団体等による協議会に積極的に関わりながら連携を深めてまいります。



平成30年度第1回協議会

地域内エコシステムイメージ



出展：平成30年度 福島県東白川郡「東白川地域内エコシステム」構築事業調査報告書
(一社)日本森林技術協会(平成30年度 木材需要の創出・輸出力強化対策事業のうち「地域内エコシステム」構築事業により作成)

福島県林業労働力確保支援センターだより

林業就業者育成の 取組について



林業人材育成研修会
小田桐講師の直接指導

◎はじめに

福島県林業労働力確保支援センター（以下「支援センター」）では、事業者が林業の持続的かつ健全な発展を担う上で不可欠な、雇用管理改善や就業者確保・育成等の取組みを各種事業を通して支援しています。ここでは、今年度これまでに取組んだ研修について紹介します。

◎「緑の雇用」現場技能者育成推進事業（フォレストワーカー研修）

認定林業事業者の新規就業者を対象とし、三年間で体系的に技能と知識の習得が得られるよう全国統一のカリキュラムのもと、集合研修と実地（OJT）研修を実施中です。

今年度の研修生は、一年生が三〇名、二年生が二九名、三年生が二九名の計八八名となっていて、前年度（九四名）とほぼ同数となっています。

① 指導員能力向上研修

「緑の雇用」を行う事業者を対象に、実地（OJT）研修を行う際の指導員に新たになる方を対象に、指導員の役割や指導方法などを中心に五月二九日から三一日までの三日間、「フォレストパークあだたら」で実施し、一六名の方

が新たに指導員となりました。



指導員能力向上研修：指導展開計画の作成演習状況

② 集合研修

集合研修は、各年次の研修生が一箇所に集合し座学や実習、資格取得を行うものです。

今年度のカリキュラムは、一年生二九日間、二年生二三日間、三年生二〇日間になっています。

六月三日から始まり七月十日までに終了した主な集合研修は、一年生では、林業の社会的責任と関係者との協働の講義・刈払機・チェーンソーの特別教育やメンテナンス・造林育林・健康管理・現場作業の安全力です。

二年生では造林・刈払機やチェー

ンソーのメンテナンス・車両系木材伐出機械特別教育の学科・森林調査、三年生では車両系木材伐出機械特別教育の学科です。



集合研修：フォレストワーカー1年生造林実習状況

③ 実地（OJT）研修

事業者が行う研修（最大八ヶ月間）で、六月一日から開始しています。現在十九の認定事業者で行われています。

◎林業就業者キャリア形成支援事業（林業人材育成研修会）

林業就業者の定着を図るため、キャリア形成に必要な知識を習得する研修を六月二一日に開催しました。道の駅猪苗代の会議室と同町内の翁島県有林をお借りして、安全なチェーンソー伐倒について、林業安全技能師範の小田桐久一郎氏が講義と実技指導を行いました。参加者は二五名で、今後も実施してほしいとの意見が多数寄せられました。

◎終わりに

今後も次のとおり様々な事業を予

定しており、逐次広報を行いますので、是非ご活用をお願いします。



林業人材育成研修会：実技研修状況

① 森林・林業担い手育成事業

高校生等の職場体験、セミナーの開催、林業女子会への支援等を行います。

② 現場技能者キャリアアップ対策（フォレストリーダー研修）

効率的な現場作業を主導することのできる現場管理者を育成するための研修を行います。

③ 基幹林業労働者研修事業（林業作業道作設研修会）

作業道の作設に関する研修で、初級研修とフォロワーアップ研修に分かれています。

④ 森林づくり研修会

森林づくりの理念や持続可能な森林経営に関する講演を予定しています。

⑤ 林業就業支援講習

林業就業希望者を対象に、十二日間にわたり林業の基礎的な研修を行い、就業促進を図ります。

公社だより

第6回
定時社員総会を開催
(6月7日)



井出理事長あいさつ

去る六月七日(金)福島市の「杉妻会館」において、ふくしま緑の森づくり公社の第六回定時社員総会を開催しました。まず、井出孝利理事長より「本県の復興は着実に前に進んできたが、県内の森林・林業を取り巻く環境は、原子力災害の影響や長引く木材価格の低迷などにより、依然として厳しい状況が続いている。このような中、当公社においては、「ふくしま森林再生事業」の取組が着実に進んでおり、平成三〇年度末



までに、四六八鈴を超える森林整備や市町村の計画策定を支援することができた。今後とも、森林資源の育成と森林の有する公益的機能の増進に向け、新たな森林管理システムの活用を図るなど、引き続き、市町村と連携しながら本県の整備を担う中核的な役割を果たしてまいりたい。」と挨拶しました。

次に、来賓を代表して、日本政策金融公庫福島支店農林水産事業事業統轄兼子秀顕様から御祝辞をいただき、三島町の矢澤源成町長を議長に選出して議事に入り、平成三〇年度の事業報告及び決算の承認、令和元年度の賦課金の徴収、役員を選任など合計四議案についての審議が行われ、原案どおり承認されました。

また、今年度から始まる、次期経営改善計画書(第二次緑の森づくり新生プラン)について、五ヶ年間の計画期間(令和一年〜令和五年)に重点的に取り組む「効率的な森林整

備」、「市町村との連携による新たな森林管理システムへの挑戦」、「ICT技術、新たな施業技術の活用」の概要について説明し、了承されました。

平成三〇年度の主な事業実績については、以下のとおりです。

1 森林再生事業の取組

- (1) ふくしま森林再生事業
 - 一〇鈴の森林整備を行いました。
 - 公社直営、市町村営併せて一〇鈴の森林整備を行いました。また、県内で避難指示が解除された区域内では、飯館村内の公社有林において、初めて森林整備に着手した平成二九年度に引き続き、間伐事業を実施しました。
 - (2) 市町村等との連携
 - 飯館村、喜多方市、西会津町、会津美里町において、公社造林地を林道の利用区域に含めた、新たな林業専用道事業に着手していただきました。

2 収入確保に向けた新たな取組

公社造林地の、まとまった面積が団地化されているスケールメリットを生かし、大口需要先と単価契約による取引を試行しました。

3 林業技術向上に向けた取組

林業関係団体等と連携し、林業事業体等を対象とした様々な技術向上に向けた取組を実施しました。

4 分収造林の契約変更の推進

二名の専任担当者を中心に契約



公社造林地の施業状況

- 者との交渉を実施しました。
- (1) 「分収割合の変更」は、前年度を四件上回る二三件の同意が得られました。
 - (2) 「契約期間の延長」は、新たに四一件の同意が得られました。

令和元年度は、保育事業等、六一四鈴の森林の整備や二五キロメートルの作業路開設・補修など約三億七、五八三万円の事業を実施する予定です。引き続き関係団体等との連携のもと健全な森づくりに努めてまいりますので、御理解と御協力をよろしくお願いたします。

※当公社の概要、第二次新生プラン等については、当公社HPで公表しております。

(URL fuku-rin.jp)

木の文化を育む⑤

人と繋がり文化を継承するモノづくり(株式会社BANKS)

郡山女子大学 人間生活学科 建築デザインコース 准教授 阿部 恵利子

○はじめに

地域経済を活性化させる町づくり、町おこしの源として、地場産業の活性化が求められています。一過性のイベントとしてではなく、地場産業の活性化により、地域が自ら自立できるような町づくり、町おこしです。そのためには、地域において互いに良い関係を築きながら共に成長する人との繋がりが重要です。

福島 の地場産木材を使った住宅の設計と施工を仕事とする、株式会社BANKS 長谷川大輔さん(福島県・郡山市)は、素材・工法にこだわり、良い材料を求めて現地まで足を運びます。使用する木材は、乾燥や加工にもこだわり、職人さんが一本一本、木の特性や表情を見極めて刻みます。人との繋がりを大切に、常に現場に目を配る長谷川さんは、BANKS「価値ある家を残す」という社名に込められた志を胸に、家づくり・家具づくりへの想いをカタチにします。次世代にわたり長く愛



着をもって継承していける。価値あるモノづくりをカタチにする。そんな長

谷川さんのモノづくりは、酒造りに使用する「木桶」にまで及びます。

○「木桶」文化の復活を願って

長谷川さんの木桶づくりは、郡山市にある酒蔵の主人に「地場の木材を活用して、酒造りのための木桶を復活させたい」と依頼されたことから始まります。酒蔵の主人の想いをカタチにするため、長谷川さんは小豆島で木桶づくりの技術を学びます。

日本の食文化に欠かせない「酒」「醤油」「味噌」は、江戸時代まで全て木桶で醸造されていたそうです。そこに育った微生物が造り出します。しかしながら現在、木桶を使用した天然醸造による生産量は激減しており、醸造用の木桶を製造する桶屋も残り一社となってしまったそうです。「酒」「醤油」「味噌」本来の美味しさをつくり出す「木桶」文化は消えつつあります。

○木桶復活プロジェクトとの出会い

小豆島まで足を運んだ長谷川さんは「木桶職人復活プロジェクト」に参加し、木桶づくりの技術を学びます。このプロジェクトは小豆島で創業一五〇年を誇るヤマロク醤油五代目の山本康夫さんが、二〇一一年に立ち上げたプロジェクトです。自分

たちで木桶をつくることで、日本の伝統文化を守り、子や孫の世代にまで本物の味を伝えるべく活動しています。地元の大工さんと共に木桶づくりを学び、試行錯誤のうえ自分たちの手で新桶を完成させる。長谷川さんは、このプロジェクトをおして木桶づくりの技術を習得し、「地場の木材を活用して、酒造りのため

タチにするため、日々邁進しています。

○福島の杉で「木桶づくり」

長谷川さんは再度、小豆島で木桶づくりの技術を学び、今年には作った木桶を郡山の酒蔵に納品する予定です。「来年は福島の杉で木桶をつくりたい」と考えています。

○おわりに

小さな出会いから様々な繋がりが生まれ、新たな繋がりに価値あるものを大切に継承しようとする気持ちが芽生えます。酒蔵をはじめ木桶の需要が増えることは、木桶づくりの技術や本来の価値あるモノづくりを次世代に継承していくことに繋がります。こうした人々との繋がりが活動が、地場産業の活性化に繋がります。福島 の地域経済を活性化させる町づくり、町おこしの源になることを願っております。



木桶づくり



木桶職人復活プロジェクトメンバー (右から1番目が長谷川さん)

木材市況

素材の価格〈工場着価格〉(2019年5月15日現在)

(単位：㎡当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	10 (10~10)	0	(0~0)		10 (10~10)	0	10 (10~10)	0
		10~14		並	スギ	13 (13~13)	0	(0~0)		13 (12~14)	△1	13 (12~14)	0
	中	14~22	3.00	並	スギ	12 (12~13)	0	14 (14~14)	2	13 (11~15)	△1	13 (11~15)	0
				並	ヒノキ	19 (16~22)	0	(0~0)		16 (16~16)	△1	17 (16~22)	△1
		20~28	6.00	並	スギ	16 (15~17)	0	10 (10~10)	0	18 (17~18)	0	16 (10~18)	0
				並	ヒノキ	30 (25~35)	0	(0~0)		22 (20~25)	0	26 (20~35)	0
			3.65	並	スギ	11 (11~12)	0	11 (10~13)	△1	13 (11~14)	0	12 (10~14)	0
				並	スギ	11 (11~13)	0	11 (11~11)	0	13 (11~14)	0	12 (11~14)	0
	1.80	並	アカマツ	9 (7~12)	0	(0~0)		11 (9~12)	0	10 (7~12)	0		
		並	アカマツ	8 (5~11)	0	(0~0)		9 (9~10)	△1	9 (5~11)	0		
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	(0~0)		(0~0)		30 (30~30)	0	30 (30~30)	0
				並	米マツ	(0~0)		32 (32~32)	0	28 (28~28)	0	30 (28~32)	0
28以下		4.00	並	エゾマツ	(0~0)		(0~0)		25 (25~25)	0	25 (25~25)	0	
			並	アカマツ	(0~0)		(0~0)		25 (25~25)	0	25 (25~25)	0	
パルプ用材			並	マツ	7 (7~7)	0	(0~0)		7 (7~7)	0	7 (7~7)	0	
			並	広葉樹	10 (10~10)	0	(0~0)		(0~0)		10 (10~10)	0	

四月の原木市場への入荷量は、前月比一割増(前年比四割増)の三二、一〇一立方メートルとなっている。
 販売量は、前月比三割増(前年比三割増)の三二、八九四立方メートルとなっている。
 五月の価格は保合いとなっている。

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(0~0)		7 (6~9)	0
	13~14		並	カラマツ	(0~0)		8 (7~8)	0
	16以上		並	カラマツ	(0~0)		8 (6~10)	△2

注) 1. 前月差の△印は値下りを示す。
 2. ()内は各地域の価格幅、()外は各地域の平均的価格を示す。
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
 4. 各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

具体的には、私が理事を務めるNPOをベースに福島大学のH先生とタッグを組み、食べ物や雪、自然体験、農林業体験、木材加工等の講座を遊び感覚で、安全と地域住民との接点に配慮しながら開催し、福島県

を山に聞きました。そこで、卒業生が県内を住みたい場所を選ぶきっかけづくりにポイントを置いて、特に大学生を対象に、田舎暮らしや地域文化が好きになり県内に職を得て、居住し続ける人を養成しようと考えました。私が福島県に就職した当時の県の人口は二〇〇万人でした。将来はもっと減るかも知っていますので、少しでも歯止めをかけようと決意した訳です。

今まで、数え切れない回数の自然観察会や森林整備ボランティア等の企画を主宰してきましたが、その活動により参加者が福島県内に就職・居住した例は極めて希と思つていました。県内の高校・大学を卒業しても県外に就職する例は多く、最近の林業就業者不足など悲痛な経営者の話を



「地域農林業推進者(仮称)を養成します」

福島県北農林事務所 鈴木比良

の魅力を参加者自身に感じてもらうことで県内への就職と居住に繋がっていきたく思います。さらには、居住地のリーダーとして農林業の振興に関わって頂くとともに、長く続く強制力の弱いネットワークも構築していく考えです。

また、もう一つの狙いは、本養成講座を進めながら、多くの人に住宅や家具などに木材を長く使ってもらい、CO₂を固定するライフスタイルを推奨していきたく思います。

やはり、木の家に住み、薪ストーブとピントーラジオオーディオを眺めながら、昼はコーヒー、夜はスコッチを飲む生活を目指して仲間づくりをしていきます。



加工しているカツラのテーブル板

表紙の写真



「澄んだひととき」

第33回ふくしま緑の写真コンクール
銀賞
受賞者 山崎厚作さん（郡山市）
撮影場所：大玉村

はなしの
ひろば

そうめん

夏バテ気味でも喉ごしのいい素麺や冷や麦なら食べられるというもの。薬味や具材を工夫すれば栄養のバランスもとれる。この素麺や冷や麦の違いは太さにある。JAS規格では、乾麺の断面が一・二ミリ未満のものを素麺、一・三ミリ以上一・七ミリ未満のものを冷や麦。一・七ミリ以上がうどんと定めている。

実は、この「素麺」には「オオモノヌシ」といふ神様がいらつしやる。所は、奈良盆地。昔、毎夜美しい娘のところに行ける男性の正体を知るために、娘の両親は、彼の着物の裾に麻糸をとおした針を刺すことを娘に指示。翌朝、彼の帰路に糸の行方を辿ったら三輪山にある神社へと着いた。この男性こそが蛇の姿をしており、鍵穴も通す糸の細さのような神様だった。そしてこの子孫の「大神穀主」が素麺作りを始めたといわれ「三輪素麺」が有名なのはここからきている。この細い麺には神様の霊威が宿っているということだ。

日本には八百万の神様がおり、私達は四季の習わしには必ず神様に畏敬の念と感謝を捧げる。針一本にも感謝の気持ちを持たない日本人の謙虚な心持ちがとてつもないと思えるのだ。

さて、そろそろ祖霊様が帰ってこられる月遅れのお盆である。仏教では「盂蘭盆会」。神様と仏教行事が混じり合った日本独自のお盆の形であるが、神様と仏様の共存を感じる一方で、祖霊様をお迎えするためのあれこれとする準備は心うれしい。

そして、祖霊様を送ると暦は「処暑」となり、夏の中の秋を感じる時季がそれぞれにやってくる。

編集

福島県内四森林管理署

発行

福島県森林・林業・緑化協会

発行人

福島県木材協同組合連合会

発行

福島県農林種苗農業協同組合

発行

ふくしま緑の森づくり公社

発行

森林研究整備機構福島水源林整備事務所

発行

福島県森林・林業・緑化協会
（福島市中町五番一八号県林業会館内）

株式会社印刷株式会社
（定価 一〇八円）

お知らせコーナー

令和元年度ふくしまの未来を育む 森と住まいのポイント事業の申請を受け付けています。 先着順 最大240棟

福島県産木材や森林認証材を使用して住宅を建設（新築・増改築・購入）する建築主に、県産の農林水産物や商品券等と交換できるポイント（1ポイント1円相当）を交付します。



住宅の新築や増改築などを検討されている方へ 最大40万円分相当のポイントをプレゼント

福島県産木材を使うと	一般向け	被災者・避難対象者 県外移住者・子育て世帯
	20万ポイント	30万ポイント
さらに森林認証材を使うと	10万ポイント加算	10万ポイント加算
	30万ポイント	40万ポイント

森林認証材とは

森林認証制度に基づき、独立した第三者機関により適切な森林経営が行われていると認証された、県内の森林から生産された木材です。持続可能な森林経営に貢献する環境・社会・経済に優しい木材です。

〈交付要件〉

- 福島県内に自ら居住するための木造住宅であること
- 施工業者の主たる営業所は福島県内にあること
- 今年4月1日以降に完成している住宅であること

- 主要構造材（柱・はり・桁・土台）および間柱（※厚さ27mm以上のものに限る）において、右表に定める量以上の福島県産木材を使用していること

延べ面積	使用する県産木材の量	
	4㎡	うち、ポイント加算となる森林認証材使用量
80㎡未満	4㎡	2.0㎡
80㎡以上95㎡未満	5㎡	2.5㎡
95㎡以上110㎡未満	6㎡	3.0㎡
110㎡以上125㎡未満	7㎡	3.5㎡
125㎡以上	8㎡	4.0㎡

- ポイント加算対象となる条件は、福島県産木材のうち表に定める量以上の森林認証材を使用していること
- 建築基準法等の関係法令に適合している住宅であること
- 世帯員のいずれも過去に本事業によるポイントの交付を受けていないこと
- 〈申請の期間〉令和元年7月1日（月）から令和2年2月28日（金）まで
- ポイント発行申請は木造住宅建設等完了後に受け付け。予算がなくなり次第終了
- 〈交換商品〉
 - 福島県産品（農林水産品・加工食品・木材製品・工芸品・その他）
 - 商品券（全国型・地域型）※交付ポイントの50%が上限

問い合わせ
申請窓口

福島県木材協同組合連合会 所在地 福島市中町5-18（林業会館2階） TEL 024-523-3307
詳しくはホームページをご覧ください 福島県木連 検索

ふくしまの未来を育む森と住まいのポイント事業は「福島県森林環境税」を財源に実施しています

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



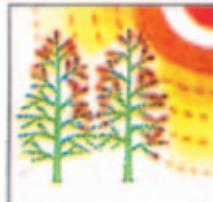
3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》
竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)
または最寄りの森林組合

イワフジの GP シリーズ

GP-35B グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.



傾斜地に対応した全回転チルトプロセッサ

- ・最大 38 度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
- ・全回転ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
- ・サイドカッター解除機能により曲がり材に対応
- ・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材

最新の GP-8 コントローラを搭載

- ・5.7 インチカラー液晶ディスプレイによる多彩な情報表示
- ・感圧式タッチパネル採用により操作性が向上
- ・A,B,C,D の 4 コード毎に 4 種類、合計 16 種類の測長設定値
- ・樹種を 4 種類登録でき、個別に測長調整値の設定が可能
- ・材積集計機能を標準で搭載



新開発のスタッドローラ (オプション)

- ・鉄輪の全周に装着された無数のスタッド(釘)が材を強力に捉え、送りモータのトルクを伝えます。
- ・特殊形状のスタッドを一体化したシンプルな構造で、メンテナンスが容易



For the future with forest

イワフジ工業株式会社

<http://www.iwafuji.co.jp/>

(北関東支店) 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168
(本社・工場) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西 5-1
(支 店) 札幌・東北・北関東・関東・中部・関西・九州

レインボー薬品の薬剤と資材

緑地管理の未来をひらく

わたしたちは、人と自然の調和を考えながら、より良い緑の環境づくりを目指しています

松くい虫予防薬剤

ヤシマスミパイン乳剤
スミパインMC
マツグリーン液剤2
グリーンガード・NEO

くん蒸剤

ヤシマンCS

くん蒸用生分解性シート

くん蒸与作シート

ハチ退治

ハチノックL(巣処理用スプレー)
ハチノックS(携帯用スプレー)



レインボー薬品株式会社

東京都台東区上野1-19-10
お問い合わせ TEL. 03(6740)7777
平日 9:00~17:00(土・日・祝日は休み)



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

ZHM1550RR



SR3100

For Professional



GZ3950EZ
排気量 39.1cc

GZ4350EZ
排気量 43.1cc



刈幅：1500mm 出力：27.5kW



破砕径：200mm 出力：18.4kW



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店
(有) うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚 108-1